

V 意見

なお、委員会で発言された意見は、次のとおりである。

- ①西小学校の余裕教室数を鑑みると、香久山西部土地区画整理事業地内の児童生徒が西小学校に通うことは難しい。
- ②特別な支援を要する子どもが増えてきている中で、普通教室に限らず、特別支援教室についても併せて議論していく必要がある。
- ③放課後子ども教室等、授業以外の教室利用者数の推移についても併せて考える必要がある。
- ④日進市は、子どもが小学生に上がった後に転入される世帯が多くなってきていることから、東小学校学区の米野木台西エリアについても途中転入による児童生徒が増加する可能性を見込んでおく必要がある。
- ⑤児童生徒数だけでなく、教員数についても考慮し、教育の質・量ともに確保する必要がある。
- ⑥新型コロナウイルスの状況下におけるソーシャルディスタンスの確保という観点から、40人学級そのものの在り方について検討が必要である。
- ⑦岩崎区の石兼、岩根周辺の地区は、竹の山小学校建設時に議論があったが、最終的には北小学校区になったため、そのような経緯も踏まえて、竹の山小学校への学区の再編成についても考えては良いのではないか。
- ⑧北小学校区を中心とする北・東部の状況と併せ、西小学校、南小学校、赤池小学校を抱える日進中学校区、日進西中学校区といった南西部についても考える必要がある。
- ⑨南西部は学区の変更等による対応が難しいことが懸念されるため、小規模の小中併設校が必要ではないか。
- ⑩南小学校は過去から大規模校が続いているが、適正規模にする対策を取らなくて良いのか。
- ⑪南小学校の地域の状況だが、南ヶ丘では、住宅の建て替えが多くなっており、折戸町高松ではミニ開発も行われているため、日進駅西土地区画整理事業が始まることも見据えて、今後の児童数の変化に注視する必要がある。

- ⑫相野山小学校において、(仮称)日進北部土地区画整理事業地から通学するには、遠いのではないかと心配される。
- ⑬赤池小学校は学校区内にマンション建設が予定されており、いつ教室が不足するか心配な状況であるが、国道153号線の影響で、通学区域の調整が難しく、将来、危惧される状況を学区の見直しを図ることで解消することは難しいと考える。
- ⑭岩崎台の子どもは香久山小学校から中学校進学時に分断されて、北中学校へ通学することになり、心の負担が大きいという声を聞くため、学区見直しを検討する際に、そのような分断の必要が無いような方法も検討いただきたい。
- ⑮日進市で少人数学級を実現しようとした場合、今の学校施設の状況で実現可能なのか、一度確認しておいた方がよい。
- ⑯学区変更に伴い、学童、児童クラブの利用ができなくなることはないように、需要調査などを早急に行い、対応していただきたい。
- ⑰学区変更の前年度(令和4年度)に移動対象児童を同じ学級にまとめられると、見知らぬ人がいることにより、少しは不安も減るのではないかと思う。
- ⑱赤池小学校、南小学校については、過大規模校の基準一步手前の状況にあることから、35人学級対応後の両校の状況を把握し、利用可能教室数の精査をし、しかるべき対策を早急にする必要がある。
- ⑲学区変更をした場合の35人学級を想定した児童生徒推計に基づき、次年度、早急に検討する必要がある。
- ⑳中学校は市内4校のうち3校が大規模校で、残り1校も適正規模校だが、余裕教室はわずかなため、中学校の建設が必要ではないか。
- ㉑日進中学校から日進西中学校への学区再編によって、日進西中学校の大規模化が著しくなるため、西中学校の分離新設を検討すべきではないか。
- ㉒体育館や運動場の面積も児童生徒数が増えれば手狭になることが予想されるため、体育館や運動場の面積の考慮が必要である。